

科目名		国際経営論 (International Business)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第5学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期 100分/週	45 時間		
担当教員		【常勤】根岸 可奈子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経営論における基本事項を理解することができる。 ・身近な企業の国際的活動について分析し、独自の見解を述べることができる。 ・多国籍企業が直面している課題について理解することができる。 								
学習・教育目標	(F)③④	JABEE基準1(2)		(a)					
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	外国事情、経営戦略論								
教科書	資料配布(以下のテキストをもとにしている 吉原英樹『国際経営 第3版』有斐閣アルマ、2011年)								
補助教材等	資料配布								
達成度評価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
	総合評価割合	30	40		30				100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	◎	○		○					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	◎		◎					
汎用的技能 【倫理的思考力】	○	◎		○					
態度・志向性(人間力) 【主体性】				○					
総合的な学習経験と 創造的思考力 【創成能力】	○	○		○					
学習上の留意点および学習上の助言									
<p>特に前半は国際経営を学ぶ上で必要な「道具」を揃えることに重点を置いている。そのため、後半の応用に入るまでに基礎用語を正確に覚えて分析の際に使いこなせるようにしておくこと。</p> <p>身に付いた「道具」をもとに、実際の企業行動に関して分析し各々見解を述べてもらう(レポート・試験)。したがって、単に言われたこと、書かれたことを飲み込むのではなく、特定の事象に関し考えること。</p>									

授 業 の 明 細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	授業概要紹介	・授業の概要、授業のやり方などを理解することができる。	(予習) レジュメを見直し、現代企業の特徴を理解する (復習) 国際的に活動する企業に関する資料を読み、内容をまとめると共に資料内容に関する見解をのべる
2	多国籍企業の概略	多国籍企業とはどのようなものか事例を見て、彼らがどのような国際的経営活動を行っているのか、その概要を理解することができる。	(予習) 経営戦略における基本事項を見直しておくこと (復習) 関心のある企業や資料中の企業の国際的活動を理解し、その戦略を分析する
3	多国籍企業の経営戦略①	多角化に関連する基本的な戦略を理解した後、日系企業の海外展開について分析できるようになる。	(予習) マーケティング論を見直しておくこと。 (復習) 国際的な企業のブランド管理やマーケティングに関する理解を具体的な資料に基づき理解し、見解を述べる
4	多国籍企業の経営戦略②	サプライチェーンに関して学んだ後、実際の企業がどのような形態で海外展開を行っているのかを理解する	(予習) 2-6回の事例の趣旨や基礎用語を確認しておく (復習) 2つの理論で企業を分析すること
5	国際マーケティング	企業が海外進出する際、どのように市場開拓を行うのか、その方法と留意点について理解する。	(予習) レジュメを見直し基本事項を見直すと共に、自分で作図できるようにしておくこと (復習) 新聞や雑誌等にある実際の企業行動について、資料に基づき見解を述べる
6	グローバル・ブランド	なぜ企業は商品に「ブランド」をつけるのか、またどのようなブランドが国際的な浸透力をもつのかを中心に理解する。	(予習) レジュメや資料に出てくる企業について知識を深めておく。また、初回から10回までに学んだ基礎事項を見直しておくこと。 (復習) 基礎事項を元に、実際の企業行動に関して把握すること。また、それに対する独自の見解をまとめること。
7	海外事業展開の論理と動機	企業の海外進出に関する理論的モデルであるOLIパラダイムとEPRGモデルについて理解する。	(予習) 自己採点
8	中間試験		
9	海外技術移転と研究開発	海外生産において重要な技術移転や海外研究開発拠点の意義について理解する。	
10	国際的組織管理	国際的に拡大、複雑化する組織の過程を理解する。	
11	日系多国籍企業の海外進出実態	日系多国籍企業がこれまでどのような海外進出を行ってきたのかについて、歴史的に考察できるようになる	
12	多国籍企業の社会的責任	多国籍企業が負う社会的責任について、それが問われる背景と責任の種類、果たし方を理解する	
13	多国籍企業と国家の関係	多国籍企業は自国の政府だけではなく他国の政府と関係を築かなければならない。その特殊性について理解する。	
14	事例分析	日本を代表する多国籍企業の1つ資生堂社の事例を分析することでこれまで学んだことが実践のなかでどのように活かされているのかを考えることができる。	
15	まとめ	試験の解説を通じ間違いを修正すると共に、特に論述に関する理解を深めることができる。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自学自習			20 時間